

Abstract

難民レジームの危機の検討：負担分担と安全保障の関連から

中山 裕美 （東京外国語大学 講師）

本稿の目的は難民が国家や社会の安全保障に対する脅威となるメカニズムを明らかにすることである。議論の前提として、本稿は難民の受入れが本質的に社会や国家の安全を脅かすものであると認識されていた経緯を確認した。そのうえで本稿は難民レジームが国家の負担分担の上に成立する点に着目し、難民の受入れに伴うコストと利益の比較衡量によって難民受入れが持つ脅威性が顕在化すると仮説を提示した。同仮説は、冷戦期は難民の受入れをめぐり政治的利益や規範的利益が存在したことで負担分担が成立したのに対し、冷戦終結以降はそれらの利益が逸失したことで難民の脅威性が顕在化し、難民の受入れを制限する傾向が確認されたという事例によって実証された。また、人間の安全保障の概念は難民レジームの新たな負担分担のレトリックとして機能するが、負担の存在を国内避難民の形で隠匿する機能をも有し、難民レジーム本来の目的を損なう可能性を指摘した。

『国際安全保障』第45巻第3号（2017年12月）35–50ページ。